2007年（平成19年） 山のトイレを考える会 事業報告

仲俣 善雄（山のトイレを考える会）

1. 第8回山のトイレを考えるフォーラム開催（2007年3月10日）

第8回山のトイレフォーラムが札幌市「かでの27」で開催され、64名の参加者を迎えて行われました。テーマは「山小屋トイレの維持管理について考える」です。

講演者は下記の2名でした。

- ・ 伊藤太一氏（筑波大学助教授）「富士山および南アルプス南部における施設整備とその費用負担」
- ・ 穂苅康治氏（槍ヶ岳観光株式会社代表）「山のトイレとエコトイレ」

伊藤太一氏は、南アルプス南部では県や市の設置したトイレの維持管理を東海フォレストに委託、全国で唯一システムとして山岳レクリエーションを民間企業が管理していること等話をされ、穂苅康治氏は北アルプスの槍ヶ岳山荘などの大きな山小屋を経営しており、環境配慮型山岳トイレ導入の先駆者です。これらの環境配慮型トイレの技術的な説明、導入の苦労話、さらに尿尿分離型便器の特徴とメリットを分かりやすく説明され、私たちの今後の活動に大いに役立つ講演でした。

講演のあと、黒岳バイオトイレの現状、利尻山のトイレ対策、幌尻岳のトイレ対策について報告があり、最後に美瑛富士避難小屋の最適なトイレと維持管理方法について白熱した議論をし、長時間に亘ったフォーラムは無事終了することができました。

2. 福岡フォーラムに講演者派遣（2007年6月17日）

「山のトイレを考える会フォーラム in 福岡2007」の実行委員会から当会に講演者の依頼があり、仲俣を派遣しました。「北海道の山のトイレ問題の現状と課題」と題して、講演しました。パネリストとしても参加、約180名の参加者で、北海道と違った山岳環境の中で、トイレ問題の悩みも深刻でした。会場からの意見も活発で熱気に溢れたフォーラムでした。

3. 大雪トイレ注意掲示板設置（2007年7月15日）

大雪山国立公園の避難小屋トイレ4箇所に、便層にゴミを捨てないように注意喚起する掲示板を設置しました。トイレに入る前に分かるようにトイレのドアと、入ってからも分かるようにトイレの中にも取り付けました。

上ホロ避難小屋は日帰り、白雲岳、忠別岳、ヒサゴ沼避難小屋は一泊、参加者は全部で18名でした。また、参加者で山のトイレ問題のアンケート調査も併せて実施しました。

4. 規約の一部改正と会員登録の実施（2007年8月2日）

当会の規約で会員の定義や運営委員の定義が明確でなかったことから、規約を一部改正しました。会員は個人に限定し、年会費1000円。会の運営委員は、代表、副代表、事務局長各1名、総務、会計、情報、渉外、広報、会計監査を各数名おくこととしました。会計年度は毎年1月1日～12月31日と変更しました。

これに伴い、規約の通知と会員の再登録の願いを送付し、会員名簿を作成しました。

5. 山のトイレ啓発用ペナントを作成（2007年8月）

山のトイレ活動の輪を広げるため、ザックに付けるペナントを手作りで作成しました。その後、当会の会員に登録した人を対象に送付しました。多くの登山者がペナントを見て、山のトイレ問題を自らの問題として考えるきっかけになればと思います。

6. 2007全道一斉山のトイレデー実施（2007年9月2日）

2007全道一斉山のトイレデーは、北海道の16箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を行いました。

参加者は約130名を超え、マナー袋、マナーガイドは約1000部を配布することができました。当会の活動目的の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を今回のトイレデーの主活動とし、登山者に呼びかけました。

当会発足してから8年が経過しましたが、「トイレ紙は持ち帰っているよ」「携帯トイレも持っていますよ」との登山者が多くなっていることを実感したトイレデーでした。また、「美瑛富士のトイレはいつ設置するの？」とのご意見もありました。活動に参加して頂いたみなさま、お疲れ様でした。

7. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに参加（2007年9月17日）

2005年から毎年実施している日高山脈ファンクラブ（代表：樋口和生氏）主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに会員3名が最終日にのみ参加してきました。今年から水力発電によるバイオトイレ1基が本格運用されました。しかし、それだけでは処理できないため簡易トイレ2基が設置されており、それが満杯になったためです。

3日間で参加者は25名。増水した額平川をみんなで協力して249kgの排泄物を担ぎ下ろしました。日高ファンクラブと地域の皆様の山岳環境改善活動に敬意を表します。

8. 美瑛富士清掃登山（2007年10月5日）

美瑛富士トイレ問題の解決に向け、環境省職員3名、美瑛町職員2名、当会からは小枝副代表と愛甲事務局長の合計7名で現地視察の調査登山を実施しました。

登山しながら意見交換するとともに、糞便やティッシュの回収も行い、有意義な調査登山を実施することができました。

9. 環境省との意見交換（2007年10月17日）

札幌市環境プラザで環境省職員3名と当会会員7名で意見交換を行いました。美瑛富士避難小屋にトイレを設置するには、継続的に維持管理する体制が整わないと困難との環境省の考え方です。維持管理をどうやってするか、トイレ利用者数の把握方法などについて議論、今後も意見交換の場を持ち、話し合いを続けることとしました。

10. ニュースレターの配布（2008年1月15日）

第9回フォーラムは2008年3月8日を予定しています。フォーラム案内状と当会の活動報告として2007年ニュースレターを約550通、会員、関係団体等に送付しました。

(以 上)

2007山のトイレデー活動報告

2007トイレデーは9月2日に実施しました。北海道の約16箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一齐に行いました。参加者は約130名、マナー袋、マナーガイドは約1000部を配布することができました。昨年のトイレデーに引き続き、今回も当会の活動目的の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を主活動とし、登山者に呼びかけました。

今回は8回目ですが、山のトイレマナーを意識している人がかなり多くなり、今までの地道な活動の成果

山域	山名	実施場所	実施日	参加者	人数	マナー袋 配布数	マナーガイド 配布数
道央	空沼岳	万計山荘	9/1	小笠原	1	35	43
"	藻岩山	慈恵会登山口	9/2	津幡ほか1名(百松山岳会)	2	81	81
"	室蘭岳	白鳥ヒュッテ前	9/2	なかよしさん、細野、森田、モッチー	4	68	62
"	伊達紋別岳	太陽の園コース	9/2	泉・森・盛岡・高橋	4	25	50
道南	狩場山	賀老新道	8/26	グループドロシェ	9	30	30
大雪	旭岳	5合目	9/2	小枝、仲俣、樋口	3	118	118
"	旭岳	5合目ほか	8/27	鈴木(貞)	1	35	35
"	黒岳	山頂	9/1	岩村和彦、栗城幸二、伊藤久平、阿部博子	4	65	51
"	黒岳&愛山溪		8/26	百松山岳会	37	320	320
"	赤岳	銀泉台	9/2	反橋、阿部	2	39	39
"	音更・石狩岳	シュナイダー	8/26	みどりの風	5	20	20
十勝	富良野岳	十勝岳温泉	9/2	鈴木(和)	1	68	50
"	十勝岳	望岳台	9/2	西田弘、只野慶子	2	50	50
道東	仁頃山	登山口	9/2	作田	1	33	33
暑寒	暑寒別岳	箸別	8/26	北稜クラブ	33	0	0
道北	利尻山	鴛泊コース 沓形コース	9/2	梅田京子、梅原 温、荏原信夫、大野尚子、黒川健一、佐々木翔馬、佐々木伸宏、佐藤雅彦、佐藤里恵、高橋純子、高橋洋美、田村憲司、寺田昭一、飛島忠章、飛島ふみ、野宮雅弘、野宮祐子、浜口悦子、疋田英子、米谷光江	20	0	0
				合計	129	987	982

(注)報告のあったもののみ掲載しています。記録漏れがあると思います。ご容赦ください。

2007山のトイレデー活動(活動概要・感想など)

山域	山名	実施場所	活動概要	感想等
道央	空沼岳	万計山荘	何時もながらこの登山者のマナーは良く、協力的でした。	マナー袋が何なのか説明が必要でした。袋に「使用済みティッシュを入れる」と書いた方が理解が早いのでは
"	藻岩山	慈恵会登山口	登山口に着いた時は駐車場はほぼ満杯。約1時間活動。登山者は途切れることはなかった。12人と対話。 ・なぜ、マナー袋を配布しているのか分からない人もいた ・垂れ流しは山を駄目にする ・トイレは有料でもいい	
"	室蘭岳	白鳥ヒュッテ前	残部はヒュッテ管理人さんに了解を得て、登山口ボックスに置かせてもらいました。室蘭岳ヒュッテ付近はゴミ、トイレ痕とも問題は無いと思います。	活動はある程度浸透しており、「がんばってください」とか「皆で考えなきゃね」という言葉を複数いただきました。携帯トイレを持っているという方も3名いました。
"	伊達紋別岳	太陽の園コース	ゴミ、トイレ痕は問題なし。登山者数は私たち以外4パーティ(単独3人、3人連れ1P)と寂しかったが、3人パーティは伊達の山の会の方で「私も山のトイレを考える会の会員です」と名乗られましたがお名前を失念(?澤さん)。ここでマナー袋とマナーガイドの大半を地元で配っていただけるとのことでお渡ししました。	登山口は「太陽の園」という施設内にあり、駐車場横の喫茶店(?)の中にトイレがあるようだが、休業していました。したがってトイレなし。
道南	狩場山	賀老新道	山頂にゴミあり(可燃5kg、不燃5kg)、塵紙等回収頂上付近にティッシュあり。	山のトイレマナーはかなり認知されてきた
大雪	旭岳	5合目	登山者にマナー袋を配布してトイレ紙持ち帰りを啓発	子供連れハイカーが多かった。旭岳登山者を中心に配布。パークボランティア?の人が5名ほどゴミ拾いや監視活動をしていた。彼らがゴミを拾っているからかゴミは全くなかった。
"	旭岳	5合目ほか		
"	黒岳	山頂	黒岳石室のバイオトイレは月3回のおがくずを取り替えている状況、風力発電が壊れたままなので、発電機を使用している。糞尿と一緒にいるの出水が多い。次に備えておがくずを干していた。攪拌のペダルを踏まない人が多い。使用料200円の回収は5割程度か黒岳リフト乗り場とロープウェイ駅間に新しいウンコと紙あり。紙は回収。ゴミは少なかった。	石室と山頂、登山道で活動したが、にわか登山者が多いがほぼ100%の人が主旨を理解してくれた。また紙持ち帰りを実施していると言う人が多い。マナー袋30を石室管理人に今後の配布をお願いした。
"	黒岳&愛山溪			マナー袋を渡しながら山のトイレの話をする、大半の人が「ご苦労様です」と言ってくれた。「対話」までにはなかなか至らなかったが、こういう地味な活動を続けていくしかないと思う
"	赤岳	銀泉台	配布した方の中には、もらったことのある方もいて、認知度は上がってきているようだ。また、概ね好意的に受け取って頂いた。	森林パトロールの方から：以前マナー袋を1箱送って頂いたが、登山者に好評で在庫は無い。余りがあれば、ぜひ送ってほしいとのこと。
"	音更・石狩岳	シュナイダー		

十勝	富良野岳	十勝岳温泉	山頂付近には、春に清掃した関係か、その他の方の清掃のおかげかティッシュは無かった。下山時に新しいティッシュ(現物は無し)4カ所、コース脇のトイレ道に使用済みタオル(現物は分解し、痕跡のみ)1カ所。ゴミは、余り目立たなかった。 下山後登山口で下山者を対象に14:30まで啓発活動実施。	概ね、好感を持って受け取ってもらえた。この好感が実際の行動につながってもらえる事を期待する。
----	------	-------	--	--

山域	山名	実施場所	活動概要	感想等
〃	十勝岳	望岳台	登山道沿いにトイレ痕はなし。ゴミは少々有ったが、かなり少なかった。	ほぼ全ての登山者から好意的な反応があった。携帯トイレを持参している人が二名居た。避難小屋は解体されて更地になっていた。ここは休憩ポイントになっているがゴミは一つもなかった。白銀荘前の通路(テントサイトの手前)に携帯トイレ回収ボックスが有ったが鍵が掛かってあった。
道東	仁頃山	登山口	終了後頂上まで見てきましたが、トイレ痕やゴミは皆無でした	
暑寒	暑寒別岳	箸別		
道北	利尻山	鷺泊コース 杓形コース	登山口に会の幟を立て清掃登山を実施。ティッシュ痕77、携帯トイレの投げ捨て5を確認、処理。 ゴミ袋大3袋ほどのゴミを回収。	年々山のゴミについては減る傾向にあり、登山者のマナーは向上してきていると感じています。しかし、今年は標高が低い場所でのティッシュ痕がよく目立つとともに悪臭も顕著でした。さらに携帯トイレの投捨てもあり、実施前には「もうゴミもないし、清掃登山の必要はないのでは？」という声も聞かれましたが、結果としては今後も継続していく必要性を確認する登山となりました。